

「お話を 読む」⑤

なまえ

あるところに、小さな村がありました。この村では、みんながなかよくくらしていました。そんなある日、とつぜん、大雨がふりはじめました。大雨の中、村人たちはひっしになって、自分の家をまもりましました。

しかし、一つの小さな家だけは、雨の水が入りこんでしまいました。家のもちぬしは、どうしようもなくこまっていました。すると、村のわかものたちがあつまり、いっしょにこの家のしゅうりを手手だつてくれました。

かれらは、足場をくんでやねのしゅうりをしたり、こわれたかべをしゅうりしたり、がんばって作ぎょうをつづけました。そして、ついにしゅうりがおわり、家のもちぬしは、ふかくかんしゃしました。

この出来ごことから、村の人びとは、おたがいにささえあい、きょう力することの大切さをまなびました。それから、この村にはこまっている人をほおっておかず、いつでもたすけあえる、あたたかいふんいきが生まれたのです。

① お話と おなじ 内ようの きごうに ○を つけましょう。

ア 大雨が ふり、みんなの 家に 水が 入って しまった。

イ わかものたちが あつまつて、 家を しゅうり した。

ウ 家を しゅうり した もちぬしは わかものたちに かんしゃされた。

② このお話の つたえたい 内ようは なんてしょうか？ きごうに ○を つけましょう。

ア こまっている人を ほおっておかずに、たすける ことの 大切さ。

イ やねをしゅうり したり、かべをしゅうり したりして 家を なおすことの 大切さ。